

次期京都市右京区基本計画の策定に向けた  
区民意見募集（パブリックコメント）

## あなたが描く右京区の 「まち」と「くらし」のミライを 教えてください！



### 【意見募集の趣旨】

あなたは、10年後の右京区で、どんな暮らしをしてみたいですか？  
あなたは、その実現のために、どんなことなら出来そうですか？

これが今回、右京区でくらす皆さんからお寄せいただきたいことです。

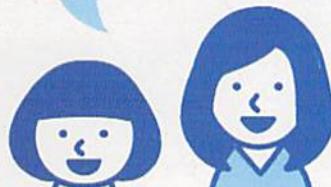
今回の区民意見募集（パブリックコメント）は、令和3年度から5年間を計画期間とする、次期京都市右京区基本計画（以下、「次期計画」と言います。）の策定に向け、「計画案」の段階で、広く区民の皆さんのアイディアや御意見をお聴きすることを目的に実施するものです。



「計画案」と聞くと、これからやろうとすることがすでにたくさん書き込まれたものをイメージするかもしれません、今回は少し違っています。

右京区でくらす一人ひとりが、「わたし」と「わたしたち」の幸せな未来を思い描く。その想いや願いがたくさん集まれば、次期計画をもっと豊かなものにしていくことができます。そして、想いや願いを叶えるための、これから行動や活動が豊かになれば、策定後の右京区のまちやくらしがもっと良くなることにつながっていきます。

このように、区民意見募集（パブリックコメント）が、次期計画を策定するに当たっての大変なプロセス（過程）であると同時に、皆さんにとっても、まちやくらしのことを考え、これから何かを踏み出すきっかけになれば幸いです。



## ▶ プロローグ

### わたしたちの「まち」と「くらし」との関わり

#### 【「まちを変える」ってどういうこと?】

わたしたちが生まれ育ち、くらしている「まち」。長い年月の中で、その様子はずいぶん変わってきたのではないか。なぜ、「まち」の様子は変わってきたのでしょうか?

それは、わたしたちの「くらし」が変わったから。「くらし」が変わったのは、「幸せなくらしをしたい」という、一人ひとりの想いや願いがあったから。つまり、「まち」は勝手に変わったのではなく、わたしたちが変えてきたのです。

「まちを変える」だなんて、何だか遠い話のよう…ってついつい思いがちですが、「まち」が将来にわたって、わたしたちにとって幸せにくらせる場であるためには、一人ひとりが「こうありたい」と想い願い続けることが、実は大切な第一歩なんじゃないかと思います。

#### 【まちを良くする行動・活動と「お互いさま】

例えば、わたしたちのくらしに身近な「ごみ」の問題。

ごみを減らすために、行政では、ごみ袋有料化や分別義務化のための条例をつくったり、市民や事業者にごみ減量を広く訴えたりしています。その行政の訴えに応じて、お店では、マイバックやマイボトル持参をお客さんに呼びかけるなどしています。わたしたち一人ひとりは、お気に入りのマイバックやマイボトルを持って、そのお店が提供するものを楽しんでいます。

呼びかける人たちがいて、それに応じる人たちがいる。この両方があってごみを減らすことにつながっています。

また、ある場面では率先して呼びかけ役を担っている人でも、別の場面では呼びかけられたり助けてもらったりする立場になることもありますね。例えば、「みんなでごみを減らそう!」と呼びかける活動をされている人も、子育てで困ったときには誰かに助けてもらったり、ケガや病気になったときには誰かに頼る場面があるかもしれません。

まちを良くする活動。ともすれば、わたしたちは、何かを呼びかけたり率先して実行している人たちだけがやっている、やってくれていると考えがちですが、実はわたしたち一人ひとりの行動がすべてここにつながっています。そして、人の行動はどこかでつながっていて、巡り巡って、その先にある一人ひとりの幸せなくらしの実現につながっています。まちは「お互いさま」で満ちています。

#### 【幸せなくらしを思い描くこと、行動すること】

大切なのは、わたしにとっての幸せなくらしを思い描くこと。そして、わたしの周りの人や、その周りの人、そのまた周りの人の幸せなくらしを想い願うこと。わたしたちは一人でくらしているわけじゃないので、これも大切なんじゃないかと思います。

わたしの幸せのために、わたしの行動をちょっと変えてみよう。

そうすれば他の人たちの幸せにもつながるかも。

他の人たちの幸せを願い、わたしの行動をちょっと変えてみよう。

そうすればわたしの幸せにもつながるかも。

わたしたち一人ひとりが想い、願い、そして行動することで、くらしは変わる。まちは変わる。  
さあ、一步を踏み出しましょう!

# 本冊子の読み方（構成）

## お寄せいただきたいアイディア・意見

次期計画は、大きく3つのパートで構成しています。

それぞれのパートについて、皆さんからのアイディアや御意見をお寄せください！

### 第1部 「わたしたらち」が実現したい未来のための「右京区基本計画」

右京区役所から、次期計画に込められた想いをお伝えするパート。

4ページへ

- ▶ これから右京区が目指したい将来ビジョン
- ▶ 何のための、どんな計画か

こんな  
御意見を  
ください！

右京区がこれから目指す将来ビジョンは、皆さんも共感できるものでしょうか？

その実現のために活用する次期計画は、皆さんに身近なものとして感じられるでしょうか？

### 第2部 「わたしたらち」が描く未来と実現のためのアクション

区民の皆さん一人ひとりが、実現したい未来やアクションを見つけていくに当たって役に立つプロセスや考え方をまとめ、皆さんに『手引き』のように使ってもらうことを想定したパート。

- ▶ まちを知る
- ▶ まちやくらしの未来を描く
- ▶ アクションを起こす

こんな  
アイディアや  
御意見を  
ください！

7ページへ

皆さん自身が描く未来と、その実現に向けて自分なりに出来そうなアクションを教えてください！

たくさんの想いやアイディアが集まれば、次期計画がどんどん豊かなものになります。

### 第3部 「わたし」と「わたしたらち」をつなぎ・支える、右京区役所や市役所のアクション

右京区の将来ビジョンの実現に向けて、区役所等が果たす役割、そして、区民一人ひとりの行動や活動を支える制度・仕組みについてまとめたパート。

- ▶ 区役所等の役割
- ▶ 区役所等が運営する制度、仕組み

こんな  
アイディアや  
御意見を  
ください！

14ページへ

皆さんができる実現したい未来を思い描き、行動・活動していくために、区役所等の施策として、あるいは身近な地域で、どんなサポートがあればいいでしょうか？

この冊子は、計画案の「概要版」であり、要点のみ掲載しています。

より詳しい内容は、「本編」をご覧ください！ 計画案掲載サイトアドレス <http://www.0000000000>





## 右京区が目指す将来ビジョン

右京区の基本計画は、右京区のまちづくりの進展と密接に関わっています。

第1期

第1期の基本計画である「右京来夢らいと計画21(2001年～2010年)」が策定された頃は、都市としての基盤整備がまだ過渡期の時代でした。そんな中、地下鉄東西線の延伸に伴う太秦天神川周辺の拠点整備が基本計画にも位置付けられ、実現につながりました。

第2期

第2期の基本計画である「右京かがやきプラン(2011年～2020年)」が策定された頃は、多様なまちづくりの担い手による自主的な活動が広がってきた時代でした。そんな中、多様な主体が連携・協力するための仕組みの構築などが基本計画にも位置付けられ、それが実行されることで、まちづくり活動の担い手がさらに広がりました。

こうして、時代の流れに応じて、区民の暮らしにとって必要な施策を位置付け、その実現を目指す羅針盤となったのが、基本計画です。

これから

では、これから5年後の右京区は、どんな未来を描けばいいでしょうか。その実現のためにには何が必要でしょうか。

どんな時代になっても、わたしたちが暮らしの中で直面する課題が無くなることはありません。

多様な生き方・暮らし方が出来るようになる一方で、今まで一部の人たちにとっての問題としてあまり知られていなかったことが浮き彫りになったり、地域社会内での人間関係の薄れや自治活動の担い手確保が困難になるなど、新しい課題が出てきました。

また、少子化や人口減少、新型コロナウイルス感染症といった、行政などこれまでの社会課題解決の担い手だけの力では対処しきれない難しい問題がたくさんあることも分かってきました。

これからの右京区にとって重要なのは、一人でも多くの人がこうした課題に「自分ごと」として関わること、解決のために協力し合うことです。

だからこそ、今回の基本計画では、次のような右京区の将来ビジョンをイメージしました。



## 右京区の将来ビジョン

右京区でくらす一人ひとりが、「わたし」と「わたしたち」の幸せな未来を思い描き、その実現のために行動している。そうした先に、右京区では、誰もが、人と人とのつながりを持ちながら、自分らしく、心豊かにくらすことができている。

そんな右京区では、くらす人たちがこんな考え方や姿勢になっている

### 「多様性」を力に変えていく

一人ひとりが自分以外のことに関心を持ち、多様な個性や価値観の違いを互いに尊重しながら、その多様性をエネルギーに変えていく。

### 「暮らしにくさ」を伸びしろにする

暮らしの中の「不満」や「不便さ」を残しながらも、それを楽しみながら、みんなで解決していく。

### 「お互いさま」で支え合っていく

人と人とがゆるやかにつながって、ほどよく甘えたりお節介し合いながら、日々の困りごとを解決していく。

### 「やってみよう」を応援する、チャレンジする

一人ひとりの「やってみたい」や「地球・社会のためにやってみよう」という行動を、互いに支え合いながら積極的にチャレンジしていく。



## - 「わたし」が、まちやくらしのことを考え行動するための基本計画 -

次期計画で描く右京区の将来ビジョンは、「みんな」ではなく「わたし」が主語です。やるべきことは計画の中ではなく、皆さん一人ひとりの中にあります。ということは、どれだけ多くの人が、「わたし」を主語に意識や行動を変えていくことができたかで、5年後の右京区の未来が変わってきます。一人ひとりが考え、話し合い、行動していくことでどんどんアップデート(更新)されていく、「生きている計画」とも言えます。

そこで、次期計画の内容は、右京区でくらす一人ひとりが幸せな未来を思い描き、行動するに当たっての『ガイド役』になるものとして、まとめました。



### 基本計画の役割（策定目的）

- ・ 「わたし」と「わたしたち」の幸せな未来を思い描くための、新たな気付きを得るもの。
- ・ 何か行動しようと思ったときの羅針盤となるもの。



### 基本計画の特徴

読み手一人ひとりにとって  
「わたし」が主語になるように。

読み手自ら考え、行動するためのスタートラインとなり、未来の実現に向けた道筋を考えるヒントに。

行政も含めた右京区に関わるすべての皆さんそれぞれにとっての未来を実現するための計画として、読み手一人ひとりが主語になるよう工夫しました。

この計画は「完成図」ではありません。皆さん一人ひとりにとってのスタートライン(出発点)や、未来の実現に向けた行動の仕方をイメージし、考えるヒントになるよう、とりまとめました。

この右京区でどんな暮らしをしてみたいか、そのためにどんなまちになってほしいか、一度立ち止まって、「わたし」の視点で未来を思い描いてみる。まず、このアクションに取り組んでみませんか。

そして、ほんの一歩でも、半歩でも、その実現のために、今の「わたし」でも出来そうなことをちょっとやってみる。これだけでも、未来は確実に引き寄せることがあります。

また、他の人に「わたし」が実現したい未来を語ってみる。他の人の意見や、他の人が思い描く未来を聞いてみる。未来の実現に向けて、「わたし」が何をしたらいいかなかなか見つからない時は、これがとても効果的です。自分と他の人が描く姿との共通点が見つかると、きっと嬉しくなると思います。

たくさんの人の想いがつながれば、「わたし」の実現したい未来は「わたしたち」の実現したい未来となり、たくさんの人の行動で、より一層、その実現に近づくことになります。



## 第1章 まちを「知る」ことからはじめる

### まちを知る方法

まずは、まちの今とこれまでを「知ることからはじめていきましょう。

まちを「知る」方法は2つあります。まずは、「わたし」目線で生活実感を振り返ることです。もう一つ、出来ればやってみたいのが、京都市などで公表されている客観的なデータを見ることです。この両方を重ね合わせていくことで、リアルで、かつ裏付けのある、まちやくらしの現状を知ることができます。

もちろん、未来に影響を及ぼしそうなこと、例えば、新型コロナウイルス感染症のような、地域や社会に大きな潮流の変化をもたらす出来事にも目を向けていくことも大切です。

それらを生活・くらし目線でまとめてみると、頭の中を整理でき、自分自身がどんなことに興味・関心や問題意識を持っているのか、実現したい未来のイメージを思い描く足がかりにもなります。

#### (1) 身近なくらしを振り返る ⇒ 主観的なもの

生活の実感(の変化)や気になった出来事などを振り返る



#### (2) くらしの変化をデータで見る ⇒ 客観的なもの

「わたし」の生活実感は「まち」で見ればどのように表れてくるのかを確かめる

#### (3) 今起こっている大きな潮流の変化に目を向ける (今なら)新型コロナウイルスがもたらした、くらしの変化

#### (4) 生活・くらし目線で整理する

考えるときの point

## (1) 身近な暮らしを振り返る

こういう時、こんなことが嬉しかった、楽しかった、辛かった、頑張ったなど、具体的な経験・エピソードを思い返してみると、意外とその時の「まち」の様子との関わりが見えてくるかもしれません。

また、自分の経験だけでなく、他の人たちの経験を重ね合わせることで、改めて気付くこと、新たに知ることもあると思います。自分で振り返ってみたら、次はいろんな人たちと語り合ってみましょう。

考えるときの point

## (2) らしの変化をデータで見る

統計データは、過去・現在・(ものによっては未来)をつなぐ大事なツールで、その間の「変化」を見ることができます。ぜひ、生活実感で出てきた気になるテーマを挙げ、それに関連する統計データを探してみましょう。大事なことは、変化の背景にあるものを想像することです。

## (3) 今起こっている大きな潮流の変化に目を向ける

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う様々な制限・自粛。この突然で急激な変化は、わたしたちの暮らしや地域活動に様々な影響をもたらしました。これからのからへの影響について考えてみると、「わたし」の未来を描くために、避けて通れません。皆さんもこの間のコロナ禍での暮らしや気持ちの変化も振り返ってみましょう。

考えるときの point

## (4) 生活・暮らし目標で整理する

右京区での暮らしは、この10年でどのように変化してきたのか。右京で暮らすわたしたちが、どんなことに魅力や課題を感じているのか。「わたし」の興味・关心や問題意識も、多くの方が集まり、寄せ合えば、実際に広い範囲にわたることが分かります。

「わたしたち」の未来を描くためには、この語り合う「対話の場」というのが不可欠です。

### ミライ会議を開催してきました!

右京区役所では、令和元年12月から、「右京かがやきミライ会議」(以下「ミライ会議」)などを開催し、右京区に関わるたくさん的人が「対話」を通じて、一人ひとりが未来を描き、実現に向けたアクションについて考えてきました。

第2部では、そのミライ会議で参加者の皆さんがあなたと語り合ってきた意見等の一部も紹介しています。これらも参考にして、何をどうすればいいのか、具体的なイメージを持っていただきながら、読み進めていただければと思います。



## ミライ会議等でやってきたこと（第1章ダイジェスト）

### ①身近なくらしを振り返る

ミライ会議では、この10年を振り返って、身近なところでどんな出来事があったのか、今の暮らしにどんな実感を抱いているのか、お互いにその実感を重ね合わせ、共有しました。



### ②がらしの変化をデータで見る

ミライ会議では、生活実感として語り合ってきた身近ながらしの変化について、関連しそうなデータを区役所職員が集めてきてお示ししました。

大きな店舗は残り、小さなお店が減っていることが分かりました。生活実感で出された、比較的小さな、昔からある地元のお店が減っているのかもしれません。



### ③今起こっている大きな潮流の変化に目を向ける

コロナ禍で起きているがらしや気持ちの変化について話し合いました。また、右京区役所ホームページ上のアンケートでも、区民の皆さんから、がらしや気持ちの変化を投稿してもらいました。

移動する、はたらく、学ぶ、食べる、つながる…  
がらしの中の様々な場面で変化が。



変化に対応することで生じている明暗も・・・



### ④生活・がらし目線で整理する

ミライ会議で語り合ってきたこと、まちの現状をまとめてみると、次の9つの分野に整理できました。これがミライ会議で「わたし」と「わたしたち」の未来を描いていく下地となりました。

- ①移動する(観光)
- ②食べる・買う
- ③稼ぐ・商う
- ④はたらく
- ⑤育つ(育てる)
- ⑥学ぶ・遊ぶ・楽しむ
- ⑦健康にくらす
- ⑧身を守る・支え合う
- ⑨つながる・交わる・集う

ここで紹介しているのは、ミライ会議等で出された意見やアイディアの一部です。

(3ページ下部参照) もっと詳しい内容は「計画本編」をご覧ください。

## 第2章 わたしたちのまちやくらしの未来を描く

### わたしが実現したい未来の描き方

未来の描き方には「今を起点」にした考え方もありますが、わたしたちがこの計画で描く方法は「未来を起点」にした考え方です。

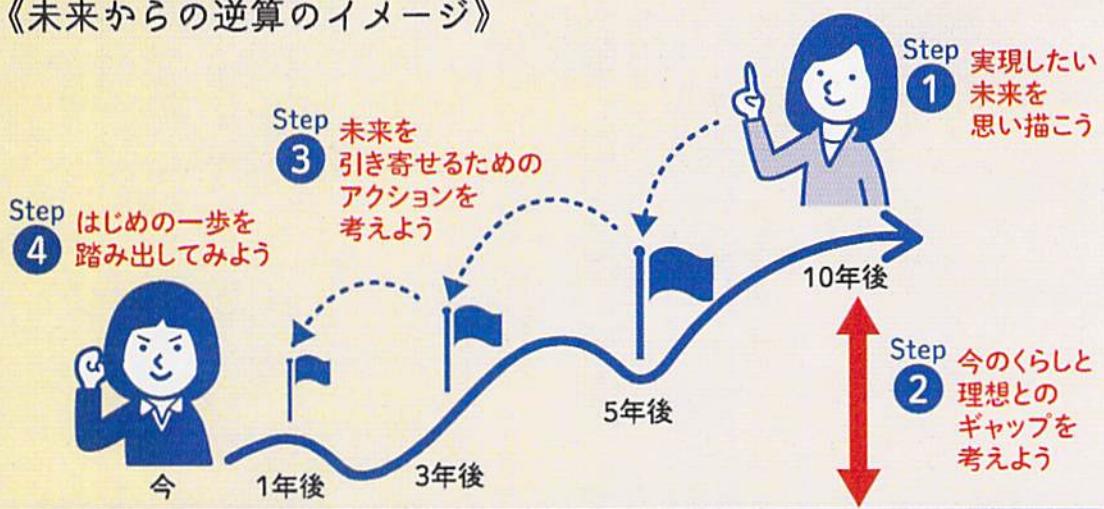
つまり、今あるものや無いものに捉われず、「こうありたい！」という理想の未来を思い描き、その未来を引き寄せるために今必要なアクションを考える「未来からの逆算」です（バックキャスティングといいます）。

未来のことは誰にも分かりません。そして、それを描くのは「わたし」です。

そうであれば、現実的な課題はいったん横に置いて、自分が本当に「こうありたい！」と想い願うものをイメージしたほうが、明るく楽しい未来が描けます。「無いならつくればいい」「とりあえずやってみよう」という前向きなアクションが生まれてくるかもしれません。

第2章から第3章では、ミライ会議のプロセスとも重ね合わせながら、この「未来からの逆算」の考え方を紹介しています。

#### ・《未来からの逆算のイメージ》



#### 考えるとき point

「誰もが安心していきいきとくらせるまち」。

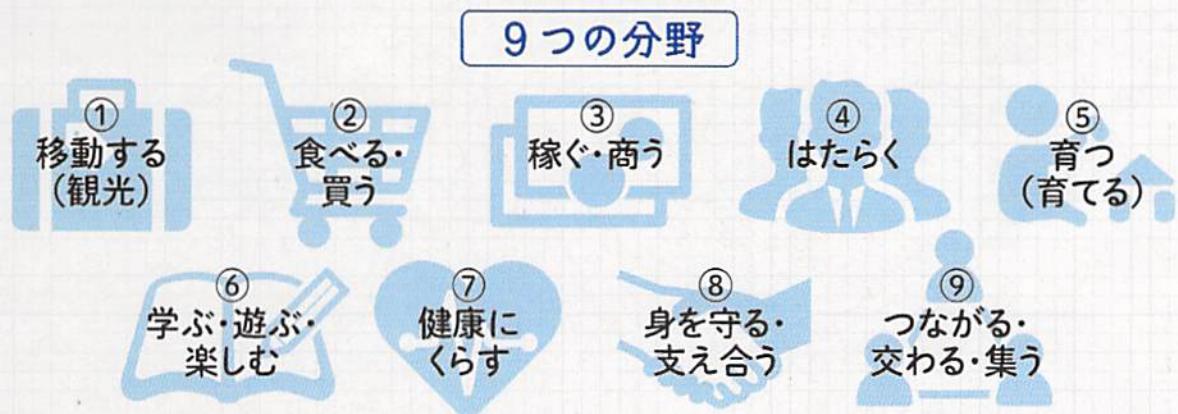
誰もが「そうだよね」と思える「理想のまちの姿」。

果たして、そのまちにはどんな人がいて、くらす人たちがどんな意識や行動をしていて、どんな暮らしをしているでしょうか？ 実はこのスマートな言葉からはそういう具体的なイメージがあまり伝わってきません。

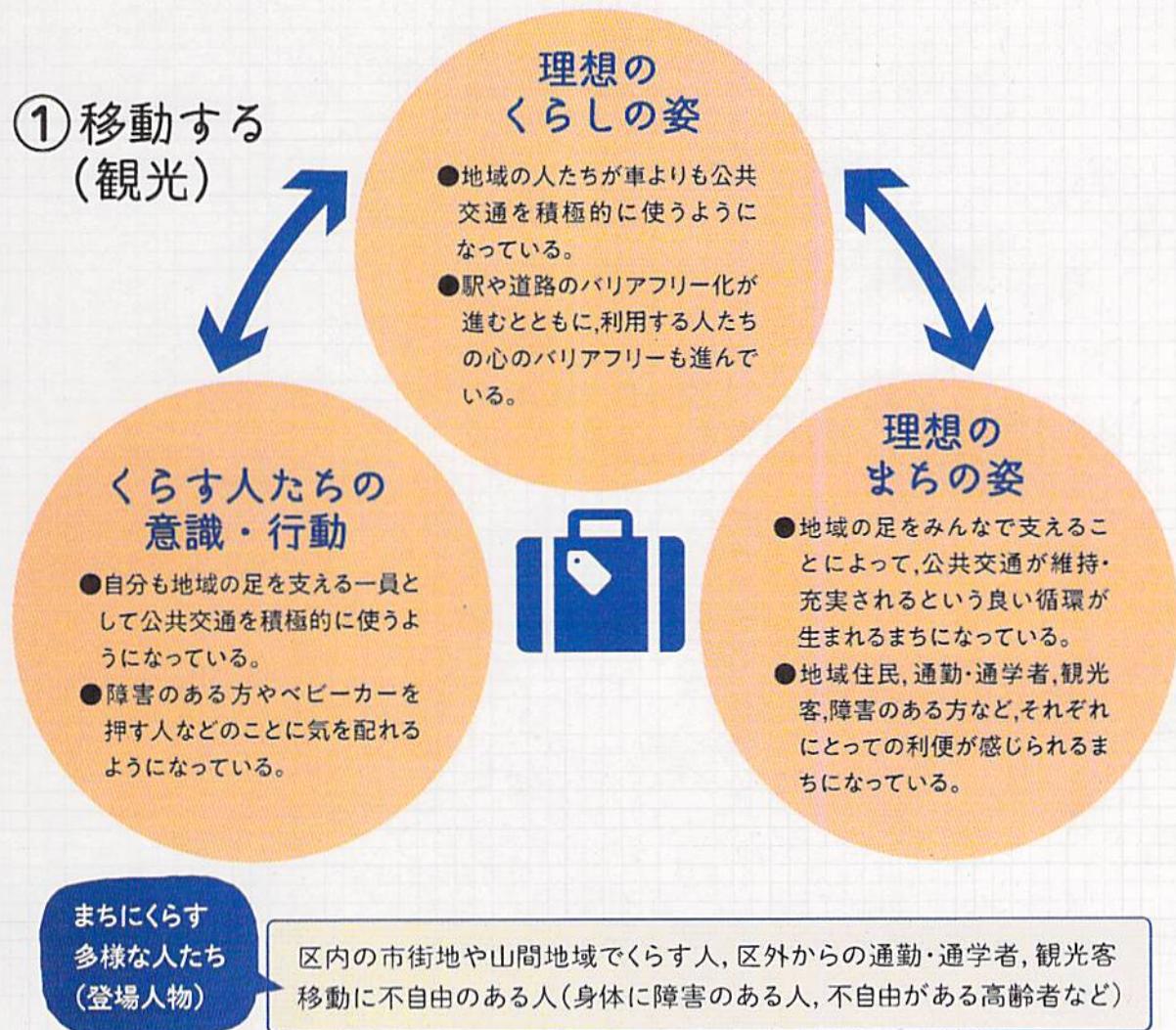
まずは、この具体的なイメージから思い描くことが大切です。そして、「まち」はあくまで「くらしの器」であって、「こんなくらしがしたい」という理想のくらしをベースに考えることがポイントです。

## 【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議でも、「わたし」を主語にしながら、「理想のくらしの姿」を描くことから始めていきました。じっくり話し合っていく中で見えてきた、9つの分野ごとの未来イメージ。



このうち、一例として、①移動する（観光）の未来イメージを図にしたものをお紹介します。



（3ページ下部参照）「計画本編」には、他の分野の例も掲載しています。

## 第3章 ミライの実現に向けたアクションを起こす

### アクションを考える方法



実現したい未来を思い描こう

#### Step①

わたしは10年後、  
どんな暮らしを  
したいだろう?

「なぜそう思うのか」  
個人の経験などをもとに  
関心事を掘り下げよう



◆あなたの未来のありたい姿は?



今の暮らしと理想との  
ギャップを考えよう

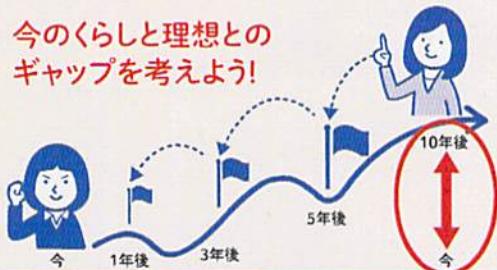
#### Step②

「ありたい姿」はなぜ今  
できていないのか?

何があれば理想に  
近づけるかな?

自分の周りの人や  
未来の実現に  
関係ありそうな人たちの  
話を聞いてみよう!

今の暮らしと理想との  
ギャップを考えよう!



◆あなたの理想と今にはどんなギャップがありそう?

#### 考えるときのpoint

1人で取り組んでみるだけでなく、他の人と話し合いながら、手順を進んだり戻ったりしながらやってみるのもいいと思います。他の人と話をしているうちに、実現したい未来のイメージがもっと膨らんでくるかもしれませんし、一緒にアクションに取り組む仲間を見つけることにつながるかもしれません。

### 【ミライ会議等でやってきたこと】

ミライ会議でも実際にこのStepで話し合い、アクションを考えてみました。その一例を紹介します。

#### 分野 移動する（観光）

#### 個人でのアクション

##### 実現したい未来

区内外からもっと人  
が訪れるような魅力あ  
るまちにしたい。（嵯峨  
野、鳥居本など）

##### 今の暮らしと理想との ギャップ

嵐山以外にもいろい  
ろな資源があるのに  
知られていない、活か  
されていない。  
リーダーがない。

##### 未来を引き寄せるための アクション

嵯峨野の田園風景の  
魅力発信  
新たな魅力創出（米  
や野菜のブランド化、  
お花畠の整備など）

##### はじめの一歩

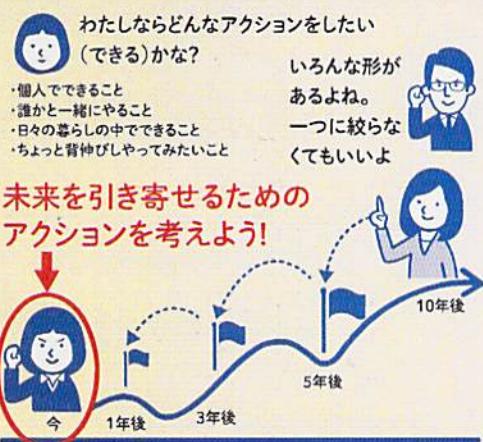
SNSで写真を通じて  
魅力を発信する。  
嵯峨野の農家に話を  
聞きに行く。

目指したい未来が描けたら、次はいよいよ、どのようなアクションを起こしていくかを考えていきます。いきなりやりたいことやできることから考えるよりも、次のようなStepを踏むと、より効果的なアクションが見つけ出せると思います。

### 3

#### 未来を引き寄せるためのアクションを考えよう

##### Step③



◆あなたはどんなアクションをしたい?

### 4

#### はじめの一歩を踏み出してみよう

##### Step④

#### わたしのアクションにつなげるために



◆あなたは「はじめの一歩」で何をする?

#### 考えるときのpoint

「アクション」には、日々のくらし方やちょっとした行動を変えてみることから、何らかの活動グループをつくって事業を行うことまで、実に幅広い形があります。そして、そのどれにも、未来の実現に向けて大きな価値があります。



#### 分野



#### 育つ・育てる

##### 実現したい未来

多様な価値観を共有し合えるようなまちにしたい。

##### 今の暮らしと理想とのギャップ

マイノリティも個性として認める価値観がまだ地域や社会(とくに教育面)で十分に広まっていない。

##### 未来を引き寄せるためのアクション

多様な価値観や多世代とふれあいながら学び・育つ「寺子屋」のような居場所づくり

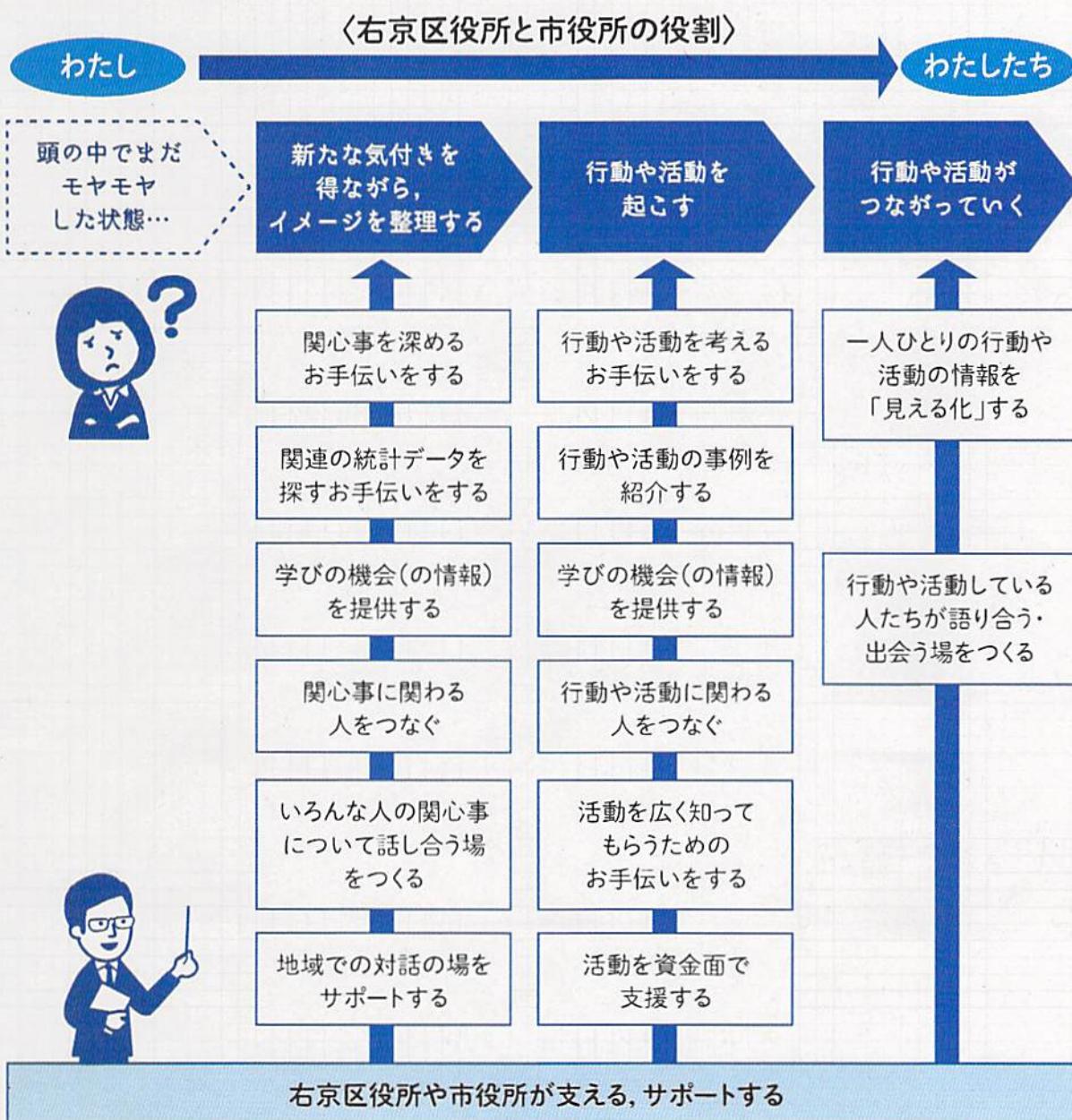
##### はじめの一歩

共感してもらえる仲間と拠点をつくる。身近な地域で親子が気軽に集まれるイベントを開催する。

#### 仲間・グループでのアクション

右京区が目指す将来ビジョンの実現のためには、まず一人でも多くの人の意識や行動が少しづつ変わることがスタートとなります。ここまで、その理想的なプロセスを紹介してきました。そして、「わたし」の想いや願い、そこから生まれる行動や活動がつながって、「わたし」が「わたしたち」になっていくことで、右京区というまちを良くすることにつながっていくのだと思います。

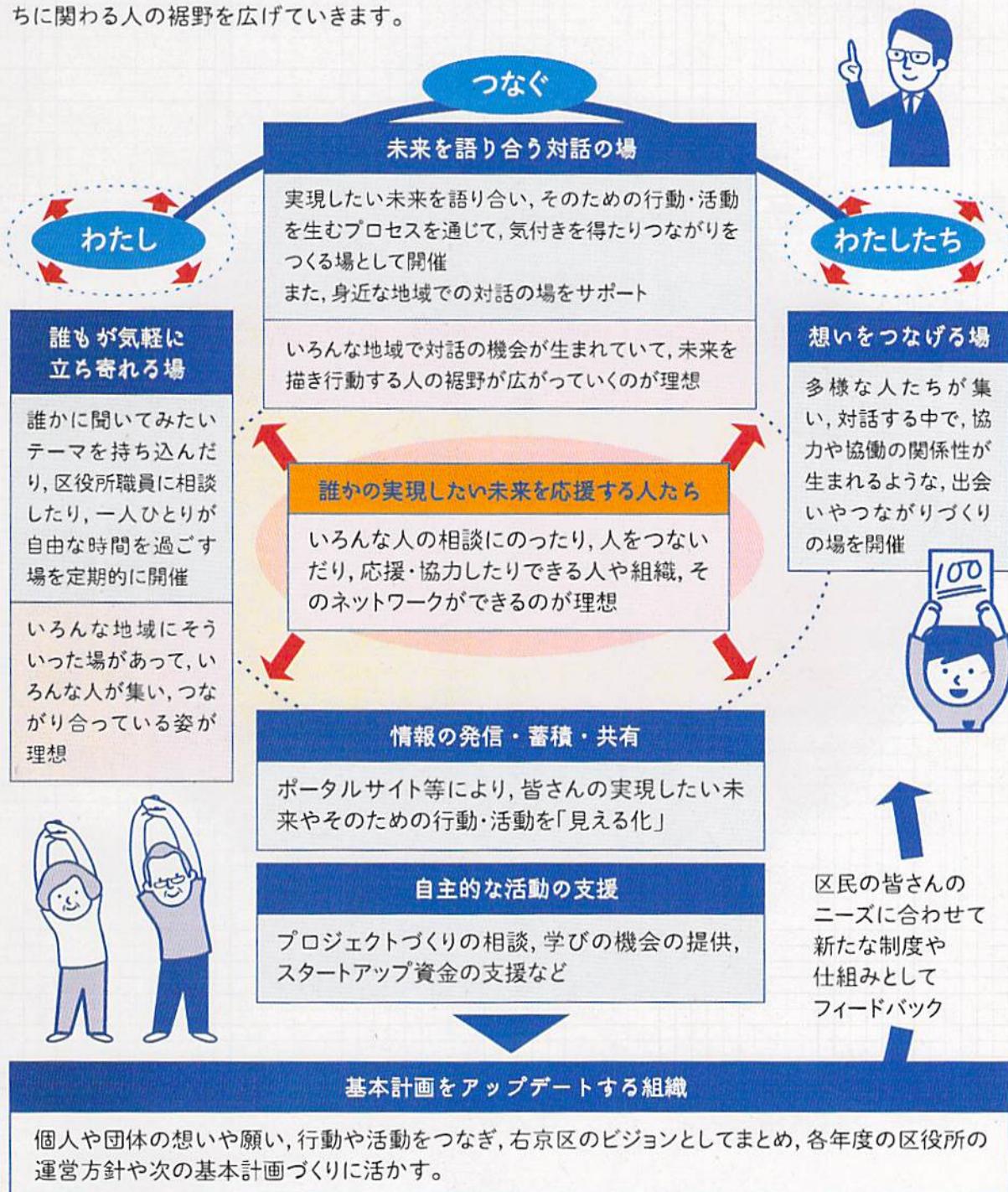
この『ガイド役』である基本計画を活用し、区民の皆さんお一人おひとりの頭の中でモヤモヤしている未来のまちとくらしの姿や、そこに辿り着くための道筋などのイメージを整理するお手伝いをしながら、そこから生まれる行動や活動を後押しし、つないでいくことが、右京区役所や市役所の役割だと考えています。



## 制度、仕組みのイメージ

これらの役割は、職員が日頃の業務で区民の皆さんと接する中で、相談をお聞きすることはもちろんですが、より幅広く使ってもらえるための「制度、仕組み」としても整えていきます。

これらの仕組みを動かし、必要に応じて形を変えたりしながら、また、区民の皆さんの中から、一人ひとりの行動や活動を「支える側の担い手」を見つけていくことも意識しつつ、まちについて考える、まちに関わる人の裾野を広げていきます。



# アイディアシート（意見募集用紙）

- 右京区がこれから目指す将来ビジョンは、あなたにとって共感できるものでしょうか？  
その実現のために活用する次期計画は、あなたにとって身近なものとして感じられるでしょうか？  
【プロローグ～第1部】

- 次期計画を豊かなものにするため、あなたの想いや願いを教えてください。【第2部】

- ・ 私は、10年後の右京区で、[ ] ような暮らしをしてみたい。  
(例：右京区に住んでいることを誇りに思える)
- ・ 私は、その実現のために、[ ] をやってみたい。  
(例：歴史や文化を学び、まわりの人たちに伝えること)

- 区民の皆さんのがこれから実現したい未来を思い描き、行動・活動していくためには、区役所等の施策として、あるいは身近な地域で、どんなサポートがあればいいと思いますか？【第3部】

- その他、ご意見があればご記入ください。

ご意見をまとめる際の参考にしますので、差支えなければ当てはまるものに○を御記入ください。

年代：10代未満 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

住所：右京区（ ）学区 右京区内通勤・通学 その他

募集期間 令和3年〇月〇日（〇）～〇月〇日（〇）

提出方法・提出先

- ・ ホームページ（入力フォーム）QRコード [http~](http://)
- ・ 電子メール [ukyo@city.kyoto.lg.jp](mailto:ukyo@city.kyoto.lg.jp)

※ 件名は「パブコメ」としてください。

※ 様式はありませんが、16ページの用紙に記載の各設問にお答えください。

- ・ FAX 075-872-5048
- ・ 郵送・持参 〒616-8511 京都市右京区下刑部町12 右京区役所地域力推進室企画担当

※ FAX、郵送、持参での提出に際しては、16ページの用紙を使用してください。

【御意見の取扱い】

- ・ お寄せいただいた御意見につきましては、個人に関する情報を除き、ホームページで公開するほか、次期計画に掲載することがあります。
- ・ 御意見に対する個別の回答はいたしませんので、あらかじめ御了承願います。

問合せ先 TEL 075-354-6466 右京区役所地域力推進室企画担当